

慶應医学会ニュースレター

～The Keio Medical Society～

Vol. 29 2023.2.

2022年11月19日開催 第102回慶應医学会総会・シンポジウムご報告

＜総会＞（※開催当時の役職名にて記載しております）

2022年11月19日（土）に慶應医学会総会を総合医科学研究棟の1階ラウンジよりWEBでライブ配信するという、ハイブリッド形式にて開催いたしました。総会では、金井隆典会長による物故者への黙祷より総会議事に進み、会員の皆様方より承認をいただきました。また併せて、野村達次賞授与式も行われました。以下に主な内容をご報告いたします。

【総会議事次第】

会長挨拶

（金井隆典会長）

2021年総務報告・2022年中間総務報告

（金井隆典会長）

2021年決算報告・2022年中間決算報告

（根岸一乃会計担当理事）

野村達次賞について

（金井隆典会長）

2023年予算（案）・2023年事業計画（案）報告

（金井隆典会長）

その他

（金井隆典会長）

野村達次賞について

（小崎健次郎野村達次賞審査委委員長）

・2023年予算（案）、2023年事業計画（案）

2023年の予算（案）として、①「生涯教育研修セミナー」の協賛 ②『KJM』誌発刊費用補助および投稿補助 ③会員向け「学会ニュースレター」の発行 ④野村達次賞賞金 ⑤国際メディカルアライアンスジョイントサマースクール補助費 ⑥アカデミックリサーチオーガニゼーション整備へ寄附を継続、そして、予算に計上することが承認されました。

・野村達次賞について

厳正なる審査の結果、9回受賞者は八木洋専任講師（慶應義塾大学医学部外科学（一般・消化器））に決定いたしました。授与式では賞状と目録が授与されました。



<シンポジウム『先端技術から紐解くところ』>

慶應医学会総会、野村達次賞授与式の後、慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室の三村將教授、放射線科学教室（診断）教授の陣崎雅弘をコーディネーターとして、「先端技術から紐解くところ」をテーマに、総合医科学研究棟の1階ラウンジよりライブ配信にてシンポジウムを開催いたしました。学内外より4名の先生方を講師としてお招きし、3時間超に亘りご講演いただきました。視聴者数は110名を超え、質疑応答も活発に行われ、盛況のうちに終了いたしました。

【プログラム】

I. 『人と親和的に関わるロボットの研究開発』

石黒 浩 （大阪大学大学院 基礎工学研究科システム創成専攻 栄誉教授）

II. 『シナプス生理学の translational medicine』

高橋 琢哉 （横浜市立大学大学院医学研究科 生理学 教授）

III. 『リアルタイムセンシングによるストレスの定量化とウェルビーイング』

満倉 靖恵 （慶應義塾大学 理工学部 教授）

IV. 『先端技術を認知症の早期診断に活かす』

三村 將 （慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室 教授）

V. 『脳回路に基づく AI 診断支援』

川人 光男 （国際電気通信基礎技術研究所（ATR）脳情報通信総合研究所 所長）

コーディネートをお願いいたしました三村將教授より、総評をご寄稿いただきましたので以下に紹介させていただきます。

【第102回慶應医学会総会シンポジウム開催「先端技術から紐解くところ」】

精神・神経科学教室 教授 三村 將

本年度の第102回慶應医学会総会シンポジウムが「先端技術から紐解くところ」をテーマとして2022年11月19日（土）に開催されました。依然としてコロナ禍が収束しない状況の中で、演者の先生方と関係者には総合医科学研究棟の1階ラウンジにお集まりいただき、一般の方々にはWEBでライブ配信するというハイブリッド形式で会は行われました。「ところ」は長い間人々を魅了するとともに、神秘的なブラックボックスでもありました。近年では、そのようなところの働きに対して人工知能（AI）や画像診断をはじめ、さまざまな神経科学的アプローチが多く、イノベーションを創出しています。



司会 陣崎 雅弘 教授 および 三村 將 教授



石黒浩先生

このように先端技術を用いてこころの働きに光を当て、さらにそれを高めていく研究領域は、ポストコロナ、ウィズコロナ時代にますますその重要性が高まっています。今回は放射線科学教室（診断）の陣崎雅弘教授と精神神経科の三村 將とがコーディネーター・司会を務めました。

このシンポジウムでは、最近の先端技術により、こころの働きの解明に取り組む当代のトップリーダーの方々をお招きしました。前半でまずご登壇いただいたのは、アンドロイド、ヒューマノイド研究の第一人者である石黒浩 大阪大学

基礎工学研

究科システム創成専攻 栄誉教授です。「人と親和的に関わるロボットの研究開発」と題して、変貌を遂げつつある人と機械との関係性を踏まえ、精神疾患患者への治療応用についてもお話しいただきました。次に、ヒトの AMPA 受容体の生体内可視化を世界で初めて実現した横浜市立大学大学院医学研究科 生理

学の高橋琢哉教授にシナプス生理学に関する双方向性の



高橋琢哉先生

のトランスレーショナル研究をご紹介いただきました。さらに満倉靖恵 慶應義塾大学理工学部教授には、電気生理学的手法、工学的アルゴリズムを用いて、リアルワールドで人のこころの状態を定量評価し、幸福感を高めるためのリアルタイムセンシング技術について解説いただきました。後半では、慶

應義塾大学医

学部精神・神経科の三村 將が、アミロイド・タウ PET やバイオマーカーを用いて認知症を早期に診断したり、診察場面の短時間の会話を AI で自然言語処理し、認知症の早期診断につながる技法について紹介しました。最後に、国際電気通信基礎技

術研究所

(ATR) 脳情報通信総合研究所の川人光男所長

には、脳回路の

微細な変化を捉え、AI を用いてうつ病などの精神疾患の診断に援用していく最先端技術についてご講演いただきました。脳科学研究の最前線に立ち、こころの問題の解明に取り組むキーパーソンの方たちのお話を通じて、日々進化するこの領域の一端を知っていただき、大きく変わりつつある新時代のこころのあり方を一緒に考えていく貴重な機会となったと思います。



三村 將先生



川人光男先生

慶應医学会ホームページについて

慶應医学会ホームページ（URL：<http://www.keiomedsoc.org/>）では例会開催情報や例会講演の抄録、医学部に新しく就任された教授・准教授・講師の先生よりご寄稿いただいたご挨拶や抱負なども掲載いたしておりますので、是非一度ご利用ください。

2023年2月27日開催 慶應医学会理事会・評議員会について

2023年2月27日（月）に、WEB開催にて、慶應医学会理事会・評議員会を開催いたしました。理事会・評議員会においては、各担当理事により2022年の総務報告、会計報告が行われました。その詳細につきましては、2023年11月に開催予定の慶應医学会総会においてご報告させていただく予定です。

2023年11月開催 慶應医学会シンポジウムのご案内

第103回慶應医学会総会シンポジウムは2023年11月に開催する予定となっております。総会シンポジウムの詳細につきましては、慶應医学会ホームページおよび9月に発行予定の次号ニュースレター等にてご案内させていただきます。

事務局より

第29号となる本号は、昨年11月に開催した慶應医学会総会・シンポジウムを中心にご案内をさせていただきます。

なお、配送物が宛先不明で返送されることが増えていることから、ご一読の上、会員情報のご変更がございましたら事務局までご連絡下さい。

ニュースレターに関するご意見・ご要望などがございましたら、事務局にお問い合わせの程よろしくお願いいたします。（事務局）

発行：慶應医学会 〒160-0016 東京都新宿区信濃町 35
TEL：03-5363-3736 FAX：03-5361-7091 E-mail：keio-igakkai@imic.or.jp